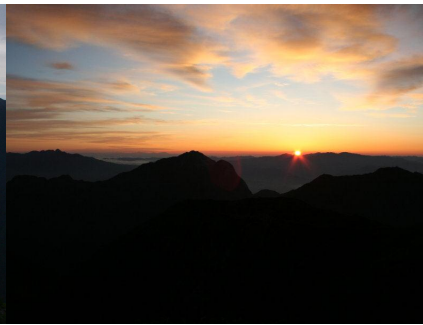


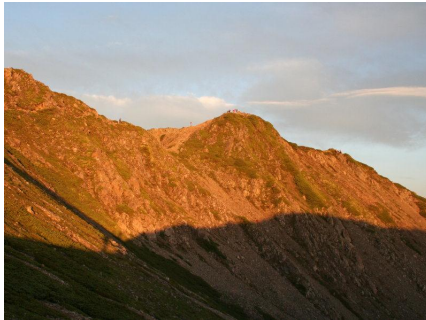
仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳山行記録



富士山と北岳(仙丈より)



仙丈ヶ岳で日の出



朝焼けの仙丈ヶ岳



甲斐駒ヶ岳(頂と摩利支天)



鳳凰三山と富士山(駒津峰より)

目的地	仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳	期 日	平成21年7月19～21日(日・祝・月)
山人	笠原正雄・澄子	特 記	仙丈ヶ岳はリベンジ、甲斐駒は再登頂。

地点名	(着)～(発)	天候	記 事
第1日目(19日)			
与 板	午前5:10 発	曇	途中、妙高高原 SA で新発田の山友メグさんに会う。彼女は御嶽に向かうそうだ。伊那 IC を 8:40 に出る。仙流荘まで 294 km 走行。
仙流荘 P	バス 9:30 発	小雨	10時発の定時バスの予定だったが、臨時発車のバスに乗る。
大平山荘	11:10 発	〃	寝袋等山中で不要の荷物を山荘に置かせて貰う。出発準備をしていると途中までで登頂を諦めた者が下りて来た。カッパ上下で苔むした樹林帯を歩き出す。断続的に雨が強く降り、風もやや強い。同様に馬ノ背ヒュッテ迄という者と 10 数名ほどスライドする。
藪沢を渡る	12:20	〃	右岸をかなり高く巻く道を進んだのち、沢に下る。丸太 4 本をくくった橋で左岸に渡る。単独男に追いつき追い越す。沢の中の道を進む。数分後、すぐ脇で小規模ながら雪渓崩落を見る。
大滝頭道と合流	午後 1:05	〃	ここから沢を離れて右へ。5 人男女隊を追い越す。やや急登となる。
馬ノ背ヒュッテ	1:20～1:25	雨	直前の登路の両側にニホンジカの食圧防護ネット柵が張ってあった。更に本降りとなり、軒下を借りて少し食べる。この後、小 1 と小 4 の子供を連れた若い夫婦と前後する。10 分後丹溪新道と合わせる。
重ね着する	1:50	霧	雨は無くなったが、風が強まり、寒く感じて来た。ハイマツ帯の途中でこの後の稜線に備えてヤッケの下にもう一枚着る。稜線では右からの吹き上げが強い。展望は全く無い。
仙丈小屋着	2:25	〃	小屋手前の水場はホースで引水されている。汲みに来た方に「もう少しですよ」と声をかけられた。ガスが濃く、下だけを向いて先を歩いていた妻は小屋に気付かず、山頂方向に 10m 程登って行った。呼び止めて小屋に入る。
小屋夕食	6:30～	風雨	夕食のみの宿泊料一人 7,000 円。濡れた物をハンガーに吊るすが、乾燥室は無い。自炊場は雨漏りがする併設小屋に会議テーブルだった。2 階に寝具が敷き詰められていた。この雨で諦め下山のキャンセルがあって、幾分空きがあった。夕食時間まで一階のテーブルで過ごす。時間があり過ぎて明日のランチ用の酒まで全部飲んでしまった。350 缶ビールが 600 円である。コーヒーも 500 円。幾らなんでも手が出ない。外は益々ガスが濃い。夕食は 2 組目の 5 時半頃。6:30 頃寝る。
夜中に外に出る	12 時頃	星空	晴れた。下界の灯りも見えた。高遠方面だと聞く。風も止んだ。

第2日目(20日)			
起 床	午前 3:20		しばらくすると1階の食堂に電気が灯けられた。そこで準備する。
仙丈小屋発	3:50	晴	東の山影際が赤くなって来た。藪沢カールの左岸縁に付けられた階段道から始まる。既に山頂を目指す者の灯りが登っている。
仙丈ヶ岳頂	4:15 着	"	10 数名が先着していた。少し明るくなって来た。甲斐駒方向を向いて日の出を待つ。周りを見渡せるようになって、山座名を聞く。 北アルプス、御嶽、南アルプスの山々。そして北岳の肩越しに富士山。
日の出	4:40	"	甲斐駒と鳳凰三山の間の東遠方から登り始めた。
下山へ	4:50	"	西の雲に山陰が出来た。影仙丈と思われる。山頂には30名程居たが、我々以外は小屋に戻るようだ。今度は藪沢カールの右岸縁を小仙丈ヶ岳方向に下る。岩稜帯をトラバースと少しの登り返しを交えながら下降する。
ヤッケを脱ぐ	5:25	"	この前後から上山者とスライドし始める。少し食べる。
小仙丈ヶ岳	5:45	"	朝も早いせいで山は静かだ。まだ富士山が見えている。正面にこれから向かう甲斐駒ヶ岳と摩利支天が大きくなって来た。
5合目、大滝頭	6:15	"	樹林帯に入り、ツアー隊を始め上山者と頻りにスライドするようになって来た。しかし、ツアーは老若にかかわらず女性が殆んどである。
2合目、駒仙小屋近道分岐	7:00	"	5合目以低から長谷村の看板が立ち木に括りつけられている。しばらくは人と会わなくなったが、この後、朝一番のバスを利用したと思われる上山者が多数上って来た。
北沢峠長衛荘前	7:25 着	"	もう皆歩き出したのだらう、北沢峠バス停付近には数人が残っているだけだった。長衛荘前のテーブルベンチを借りてパンとポタージュスープ等で朝食を摂る。その前に500円で350缶ビール一本を2人で飲む。
"	8:25 発	"	時間が遅いせいで人気が無く、全く静かな林間登りである。
登路で休む	9:10	"	時折、木漏れ日があたるが、湿度が無く夏にしては比較的快適だ。但し、ひと山下ったのちの登りはややきつい。ゆっくりペースで進む。
双児山	10:05~10:15	"	少し前に駒津峰までと言う単独若女性と、そして仙水峠経由での登頂夫婦とスライドする。ここに来て下山数人隊と会う。双児山ピークで3人の若い女性下山隊から写真を撮って貰う。展望が開けて目指す頂や鳳凰三山、北岳、今朝下って来た仙丈ヶ岳等良く見える。
駒津峰	10:55~11:05	"	一度樹林帯を下り、ガレ場を登って到着。10人程居た。また富士山を見ることが出来た。先回は雲間でしか見えなかったが、今回は全く遮るもの無く、白い花崗岩からなるどっしりとした甲斐駒全容を見ることが出来た。長野県岡谷市の鉢伏山から発信するJA O BTX(田上町クボタ)のCQを受信し、暫し交信する。灌木尾根から岩場混じりの下りとなる。
六方石	11:30	"	巨岩を経て直登ルートを見送り、右へ進み花崗岩砂の登りとなる。直射日光を受けて少し暑い。標高が上るにつれて時々強い吹上げ風を受ける。下山者とスライドするが、さほど混んではない。
摩利支天分岐	11:50	"	右へ下っている。今回も疲れと時間を考えて行かないことにした。摩利支天の頂に数人が立って居た。受ける風が寒くなる。
甲斐駒ヶ岳頂	12:20	"	竹宇登山口5時間30分との道と合わせてすぐに山頂祠の前に出る。祠の裏側に三角点。大きな岩陰に腰を下ろし一枚羽織って笹寿司でランチ。10数名程度が居る。鋸岳5時間30分要注意と道標が先を指している。
下山へ	午後 1:10	"	東のもう一つのピークに寄ってみる。駒ヶ嶽神社本社と記された石柱があり、まだ新しい立派な石造りの祠があった。他に大国主命の金属柱や鉄剣等が立っていた。岩礫登路脇にタカネツメクサ、ミヤマキンバイが咲く。
駒津峰	2:15~2:20	"	広場脇に一株だけ暗紫色の花を見た。トウヒレン属と思うが名前が分からない。左に下れば仙水峠だが、往路と同じ道を下る。
双児山	3:00	"	だんだん日差しが暑いと感じて来た。単独男に追い付き先行する。
北沢峠長衛荘前	4:15 着	"	飲み水も少なくなり、グッとこらえて歩き、ここでジョッキ生ビールを一杯ずつ飲む。たまん旨さだ。(700円×2)
大平山荘	4:40	"	近道を下り、入宿。寝具無し素泊まり@3,500円。棟西側に設けられている下屋ベンチでデナータイム(スパゲッテー・αリゾート他)。7時頃就寝。
第3日目帰路	山荘 7:25 バス	雨	α飯等で朝食。戸台から下諏訪へ、片倉館で入浴と昼食。一般道で帰宅。

3年前の同週にこの2座を目指したが2日目が土砂降りですべてを諦めて帰った。今回週間予報は3日間共まずまずの天気の筈であったが、直前で変わった。初日が降雨悪条件だったが翌日の好天を期待して上山をした。妻は長い山は久しぶりであるため、脚慣らしに弥彦山を2度往復して備えた。そして予定通りの時間で歩き通すことが出来た。登頂を諦めた人がいた中で、たった一日だけの晴天をとらえることが出来て、絶景満足の山行だった